



**全国女性建築士連絡協議会
参加報告**

旭川支部 **高見 友子**

2月27日から二日間東京で開催された平成26年度第24回全国女性建築士連絡協議会に参加してきました。

二日目は、8つの分科会が運営され、F分科会「子どもと住環境」で、旭川支部女性副委員長の齋藤裕美さんが、旭川支部女性委員会で企画運営している「建築科専攻の高校生とのワークショップ」について発表しました。

全国から集まるので、どんな方達なのか、不安もありましたが、発表後は活発なディスカッションが行われ、様々な地域で行われている事例をたくさん聞くことができました。活動している人が固定されてしまう、子ども向けに企画をしても参加者の募り方、参加者の確保が難しい、資金調達はどうするのかなど、全国共通の悩みであることが分かりました。

もうひとつの発表だった兵庫県建築士会の「すまいる学習をサポートします」の活動のように長く続き、頼りにされる活動はまだ少ないですが、他団体との連携で行っているものも含め、工業高校建築科の生徒とのワークショップ、ものづくりに興味のある小学生に参



加してもらい“お菓子の家づくり”、高校の家庭科授業で行う住居学の出前講座など、北海道や旭川支部の活動は多岐にわたって全国にも誇れることだと思いました。

ディスカッションの中では、続けることの大変さ、大事さについても話されており、毎年の企画も大変ですが、今後も長く続けていくことができればと思います。



～～「建築科専攻の高校生との
ワークショップ」発表抜粋～～

工業高校建築科を卒業したばかりの会員に、建築業界に進んだ同級生は少ないと聞いて驚き、建築の仕事の魅力や面白さをもっと伝えよう！という思いから高校生向けのワークショップを企画し、平成24年から毎年開催しています。

進路を考える際に参考にしてもらえるよう、メンバー数人が自分の仕事を紹介し、生徒達にも好評。

自分の住むまちにも関心を持ってもらうため、玩具のブロックを使ってテーマに沿った建物や街並みをグループで相談しながら作ってもらっています。「建築士に興味があった、具体的なイメージにつながった」など声もあり、生徒達の求めているものが何か、内容を進化させながら建築士として長く続けていきたいと思っています。

連載第1回(全4回)

**ライフオーガナイザー
について**

1級建築士・ライフオーガナイザー
函館支部 **岩崎 美乃**

「ライフオーガナイズ」って
聞いたことありますか？

ライフオーガナイズは、空間の整理をする前に、心や頭の整理をするアメリカ発の整理術です。自分の日常の暮らしが快適になるように仕組みを作ること。やりたいと思ったことがすぐでき、望む結果が得られます。

たとえば、お料理を作るとします「あれっ？この間買ったお肉どこにしまったっけ？」なんてモノ探しからだ、お料理するまでの間に疲れてしまいますよね。

食材、調味料、道具や食器などが簡単に準備でき、ストレスなく調理、配膳ができ、後片付けもスムーズにしまえて、最初のお料理を作る前の状態にすぐにもどせる。余裕がありますよね！こういう仕組みを家の中に作ります。

建築では、施主の希望を聞いて間取りや収納を作っても、完成後に何うと収納に入れないでそのまま見えるところという経験はないでしょうか？

もしかして、施主の行動のクセと収納が合っていないのかも。

施主が自分を知り（価値観・利き脳・優先順位等を再発見）、これからの自分と家族が望む暮らしがイメージできたら、それに合わせた家づくりができるのではないのでしょうか。

仕事の効率も上がり、時間とお金の節約になり、プラス施主とのコミュニケーションも上がります。ライフオーガナイズは誰でも身につくスキルです。

今回はレジデンシャルオーガナイズについてです。